



JAC北九だより

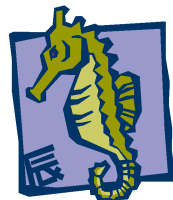
NO.59 (平成24年第1号)

社団法人 日本山岳会 北九州支部
Kitakyushu Section of The Japanese Alpine Club

発行: 社団法人日本山岳会北九州支部
支部長 伊藤 久次郎
事務局: 福岡市早良区昭代3-9-502
山田 武史 方
TEL・FAX: 自宅 092-844-3563
携帯 090-6422-5662
編集人: 伊藤久次郎・関口興洋
印刷: 山口県山口市水の上町2-25
内藤製本所

2012

恭賀新年



速報!

武永親子 南米大陸の最高峰アコンカグア (6960m) の挑戦

悪天候のため、登頂断念!

三男・靖弘 (20) 君、6700m地点に到達



1月2日、ニド・デ・コンドルス 5400m C1で
(武永会員からの帰国第一報メールより)

昨年12月20日、日本を出発し、本年1月元旦に登頂予定でアコンカグアに挑戦した武永親子の2人は、12月25日ベースキャンプ (4300m) に入り、高度順応に手間取ったが、12月31日ニド・デ・コンドルスC1 (5400m) に達した。1月1日頂上を目指したがビエンコブランコ (白い悪魔) と呼ばれる悪天候に見舞われ中止、同2日再度挑戦しようとしたが天候回復せず、登頂を断念した。武永計介会員は6200m、三男の靖弘君は6700m地点まで達し、頂上まであと260mであった。予定どおり7日に無事帰国した武永会員と靖弘君、登頂こそ逃がしたが、初海外登山挑戦としては十分手応えがあり、親子で困難に立ち向かえたことは素晴らしいことである。なお、親子から10日、下記のようなお礼のメールが寄せられた。(伊藤)

アコンカグア登山をご支援頂いた皆様へ (件名: 親子でアコンカグア挑戦のお礼 日時: 2012年1月10日)

この度は、標記登山を応援頂き、ありがとうございました。1月7日に二人とも無事帰国することが出来ました。登山については、高度順応の遅れと、12月30日頃より毎日、午後より5200m以上に白い嵐 (強風と大粒の雪がミックスされた嵐) が発生した為、チャンスを狙うには日程が足らず、登頂は断念し、6700mを最高到達点としました。親子に取って、達成可能な最高の記録だと思っています。日本を出発してから、毎日問題や困難が発生しましたが、楽しみながら乗り越えた事は、良い思い出と成りました。1月8日には、靖弘も成人式と同窓会に出席することが出来ました。登山の詳細については、後日報告出来ればと考えています。最後に、出発前帰国後を含めた、ご支援に感謝しております。 武永計介 武永靖弘 (原文のまま)

支部長会議の報告

“新”日本山岳会 4月1日の設立をめざす

伊藤 久次郎

新年明けまして、おめでとうございます。今年は日本山岳会が新しい組織に生まれ変わる年になっています。昨年末の支部長会議から、その内容を報告することで、新年のあいさつといたします。

支部長会議の報告

1. 日時 平成23年12月3日午前10時～
2. 場所 東京都千代田区 日本山岳会ルーム
3. 議題 (1)会務報告 (2)支部活動報告
(3)その他
4. 司会 高原常務理事

1. 会長あいさつ(尾上会長)

それでは本部の動向などお話ししたいと思います。まずは、JACにとりまして今一番の関心事は、新しい法人制度改革への対応です。今年の3月そして6月の総会で、公益法人への移行、そしてそれに伴う定款のご審議を賜り、申請に向けての書類作成作業など進めてまいりました。そして、10月25日に内閣府の公益認定委員会に申請を終えることができました。これは我々の希望通り来年の4月1日から、公益社団法人日本山岳会に移行できると確信しております。6月の総会以降、申請書類の作成作業や他団体の動向、あるいは世間のすう勢をつぶさに観察しておりましたが、改めて私たちの選択が正しかったということを確認した次第です。どうか支部の皆さんにおかれましても、ご心配をおかけしておりますが、これまで通り支部運営に従事いただきたいと思います。

それからもう1つ大きな問題は若年層会員の入会促進の問題です。この問題は現在ジャックユース(JAC Youth)プロジェクトチームを立ち上げ、チームの皆さんが真剣に対応してくれております。

もう1つは、新しいJAC像を作り直そうということで、全理事や全理事会で取り組む必要から西村副会長をリーダーとして、細則の検討から制度などあらゆる問題を整理しているところです。

次の問題は、JACの会員のメリット、会員サービスの充実について次年度から取り組んでいきたいと考えています。

そして次は、東日本大震災の義援金の問題ですが、現在470万円ほどが全国の会員の皆さまからご奉仕を頂いておりますこと、お礼申し上げます。

それから最後に報告があります。ただ今、日本山岳会の支部は30支部ありますが、このたび関西支部のプロポーザーによって31番目の四国支部が誕生しそうです。

**2. 新法人移行プロジェクトチームについて
(吉永副会長)**

○チームのリーダーは、東海支部の佐野氏、私はその担当理事ということで、現在それに関わっている。平成23年6月の総会で圧倒的多数で承認をいただき10月24日、公益認定委員会に申請をして受理された。その後7人の委員により審査を行い、遅くとも2月の始めころまでには方向性が出て公示される。それから認定に入るので、3月20日ころまでに認定をいただけるようお願いしている。そして4月1日(日)付で、今ある「社団法人日本山岳会」は解散する。そして同日付で「公益社団法人日本山岳会」を設立するという手続きをする予定である。

○支部に関する規定の変更について

今後、今ある全支部は公益社団法人日本山岳会の組織の中に入り、そのガバナンス(統制)のもとに理事会を中心とした執行がなされることになる。それは「お金の流れ」「事業の一体性」「人事の一体性」である。お金は、来年から事業補助金と運営交付金に分かれる。この中の事業補助金については、日本山岳会全体のお金として詳細な報告が必要である。支部にあっては今まで通りに事業を進めてもらいたい。事業の一体性については、日本山岳会では定款の中で、事業の項目を書いている。人事については、今まで支部長の人事は支部で決めて、理事会で承認するということであったが、これからは支部長の人事は本部理事会の承認を得て、会長が任命するということになる。また支部とは、本会の目的である事業を実施するため、本会と一体とした活動を行う組織である、と定義した。4月1日が確実と思われるので、支部は早急に役員会を開いていただき、支部規約の改正案を出してもらいたい。そして、4月1日の理事会で一括承認をして、晴れて「公益社団法人日本山岳会」という新しい組織が誕生することになる。

3. 金の流れについて(小林常務理事)

今までの支部助成金は、運営交付金と事業補助金とに分かれる。運営交付金は1人あたり1000円で、ある程度自由に使えるが、事業補助金は公益的目的

に使用するもので、申請に基づいて1人あたり1500円を配分する。決算については、それぞれの金銭の用途を求める(領収書の提出)。これが金の流れの一体である。この報告結果を本部の決算の中に組み入れる。したがって今後支部においても正確な処理が必要になってくることを念頭に入れておいてほしい。(以下事務処理関係については省略)

4. 山の日制定プロジェクトチームの状況について(西村副会長)

11月20日松本市で、「岳都松本山岳フォーラム2011」という山岳フォーラムを開催した。詳細は会報「山」で紹介。

5. 震災復興プロジェクトチームと支部の活性化(宮崎プロジェクトチームリーダー)

(1) 震災復興については、会報「山」で書いたとおり。事務作業はほぼ終わった。

(2) 支部活性化については、会長がいつも会員の増強について申し上げているので、その手段について応援することを考えている。一つは四国支部ができそうであるが、首都圏も空白部分があるので、その部分を埋めるように支部を通じて努力していきたい。

(3) 全国支部懇談会の開催地について

来年は10月20日(土)、21日(日)千葉支部の予定。

6. 山研の利用促進について(森常務理事)

山研の利用促進について皆さまからアイデアがあれば出してほしい。

7. 支部活動報告

各支部から、1人1分程度で支部の現況が報告された。

以上

森林保全巡視員の更新

「森林保全巡視員委嘱証明書」33人分交付

グリーンキーパー副代表(事務局長) 山田 武史

平成23年10月31日で森林保全巡視員の委嘱期間満了に伴い、九州森林管理局に委嘱期間の更新を申請中の処、この程、申請通り33人(従来は40人でしたが、辞退者9人、新規2人)に対し、委嘱証明書が交付されました。有効期限は平成23年11月1日から平成25年10月31日までです。森林保全巡視員の皆様には、従来通り、巡視活動を継続して頂きたくよろしくお願い申し上げます。

九州森林管理局森林巡視員名簿

平成23年11月1日現在

有効期限：平成23年11月1日～平成25年10月31日

日本山岳会北九州支部

No.	氏名	生年月日	職業	住所
1	秦野 一彦	T14-01-21	大学講師	北九州市八幡西区
2	大庭 常生	S10-12-22	団体職員	北九州市若松区
3	関口 興洋	S14-02-18		北九州市門司区
4	末吉 史忠	S15-12-20	団体役員	北九州市門司区
5	大楠 益弘	S12-12-06	会社役員	北九州市門司区
6	原 広美	S21-07-28		下関市長府
7	村上 強	S25-01-12	会社職員	北九州市小倉北区
8	伊藤久次郎	S15-01-10		田川市西平松町
9	藤田 傳	S02-02-17		北九州市八幡西区
10	西村 信子	S22-06-20		京都郡みやこ町
11	板倉 健一	S24-11-02	会社職員	北九州市門司区

12	磯野 文雄	S29-04-09	団体職員	糟屋郡新宮町
13	太田 満	S16-11-05		田川郡福智町
14	馬場 基介	S16-12-14		北九州市門司区
15	大城戸昌俊	S04-06-12		北九州市八幡西区
16	高畠 拓生	S08-01-15	会社職員	嘉麻市上山田
17	宮城 尚志	S38-06-17	団体職員	飯塚市大分
18	山田 武史	S20-04-08		福岡市早良区
19	片山 俊昭	S27-07-01		京都郡苅田町
20	片山 礼子	S27-03-11		— 同上 —
21	江頭 精一	S30-09-03	会社職員	北九州市小倉南区
22	濱松 禮子	S22-05-12		行橋市西泉
23	丹下 治	S15-12-28	会社職員	北九州市門司区
24	丹下香代子	S20-01-04	一同上一	— 同上 —
25	三宅 清和	S30-05-25	会社職員	中津市中央町
26	大木 康子	S18-04-24	会社職員	北九州市小倉北区
27	小林 富雄	S19-04-19	団体職員	福岡市東区
28	平野 一幸	S20-02-03	会社職員	糟屋郡須恵町
29	榊 俊一	S20-11-08		糟屋郡篠栗町
30	中岡 邦男	S23-05-21	団体職員	直方市上頓野
31	林 大輔	S59-04-02	団体職員	福岡市中央区
32	竹本 正幸	S24-03-07	会社職員	行橋市東泉
33	竹本加代子	S24-01-02		— 同上 —

24年度山行(行事)計画 (案)

北九州支部

年度	月	日	山名	内容・場所	担当	行事
H24年 (2012)	4月	1日(日)	皿倉山 及びビジターセンター	山岳技術専科(第4回)	竹本	山岳技術専科
		15日(日)	平尾台(唐手岩)	岩登り教室	板倉、竹本	
		22日(日)	英彦山(清掃登山)	清掃登山	西村信 高畠	
		28日(土)		ホテルニュー田川(小倉)	関口	第13回通常総会
	5月	26日(土)	英彦山 山開き前夜祭	山開きと山の日制定PR	日向 高畠	英彦山山開き
		27日(日)	山頂で山開き神事	&トイレ設置PR		
	6月	31日(木)～ ～3日(月)	針の木岳 ・雨飾山	慎太郎祭	関口	慎太郎祭
		12日(火)	黒岩～泉水縦走	縦走	中岡	
	7月	初め	美祢宇部興産		伊藤	化石学術調査
		28日(土)～31日(火)	白山	夏山山行	原	
	8月は夏休み (個人山行)					
	9月	9日(日)	万年山 切株山		丹下 西村	
	10月	6日(土)～9日(火)	韓国・雪岳山(1708 ^{ソラクサン} ft)	海外遠征	山田	海外遠征
		14日(日)	大岩扇山、小岩扇山	玖珠の山と温泉を楽しむ	濱松	
		20日(土)～21日(日)	全国支部懇記念山行(千葉支部)			全国支部懇(千葉)
	11月	3日(土)～4日(日)	3日 宮崎ウエストン祭 4日 記念山行	宮崎支部との交流	高畠、日向	宮崎ウエストン祭
		10日(土)～11日(日)	九重 キャンプ	広島支部との交流	内藤	
	12月	1日(土)		東京		年次晩餐会
		8日(土)		(場所未定)		支部忘年の集い
		18日(火)	霜降山(山口県宇部)	一等三角点の山	大内、椋本	
H25年 (2013)	1月	20日(日)	英彦山	アイゼン歩行練習	板倉	
	2月	9日(土)～11日(月)	大山	冬山山行&テント泊 (中級)	板倉	
	3月	24日(日)	福智山～皿倉山	縦走	中岡、原	
	4月	7日(日)	英彦山	清掃登山 &山の日制定PR	西村、高畠	
		13日(土)～14日(日)	平尾台岩登り教室	キャンプ場でテント泊	竹本 板倉	平尾台岩登り教室
	5月	7日(火)～8日(水)	五葉岳～夏木山	アケボノツツジ	榊	
		25日(土)～26日(日)	英彦山	山開き	高畠	英彦山山開き

(お願い) この計画案のほかに、自分が希望する山などあれば山行委員長(原)まで連絡下さい。また、園川講師による山岳技術専科を本年度も続けたいので、受けてみたい項目があれば、同じくお知らせ下さい。

「山の日」制定協議会が作成したリーフレット 第3弾「安全編」



山を知る
10のQ&A
安全編

山を考える

安全編

「山の日」制定協議会

1 朝、テレビの天気予報で降水確率が0%となっていましたか雨対策は?

① 0%なので雨具を持つ必要はない
② 標高1500m以上の山に登る際には雨具を持っていく
③ たとえ予報が0%でも雨具は必ず持っていく

6 下山途中、道に迷ったと思ったら、どう対処するのが正しいでしょうか?

① ただちに行動を中止してビバークする
② 分かるところまで登り返して考える
③ 方角を確かめて歩きやすそうなところを下る

2 山や自然の中で自分の位置を把握する方法は、次のうちどれでしょう?

① 知っていそうな人が来るまで待つ
② 地図とコンパスで現在地を確認
③ 道標や掲示板のあるところまで行く

7 登山の際に、いざというときのための必需品は、次のうちどれですか?

① ヘッドランプ、救急医薬品、非常食
② 古新聞紙、大型ポリタンク、作業手袋
③ カセットコンロ、ヘルメット、ローソク

3 山の中で休憩を取るのに最適な場所は、次のなかではどこでしょう?

① 切通しなどよく風が通るところ
② 見晴らしがよく周囲のいいところ
③ 平坦で風をさえぎることができる場所

8 仲間と山登りに行く場合の判断・意思決定で最適と思われる方法は?

① 判断に迷ったら多数決で決定する
② 一人一人の判断により別行動をする
③ 事前にリーダーを選任し決定権を委ねる

4 仲間と登山をするとき、歩くペースは、誰に合わせていたらいいのでしょうか?

① 仲間全員の平均値を基準に歩く
② 一番体力の弱い人に合わせて歩く
③ 各自が自由なペースで歩き、頂上で会えばいい

9 登山道で登山者どうしがすれ違う際、正しい対処法を選んでください。

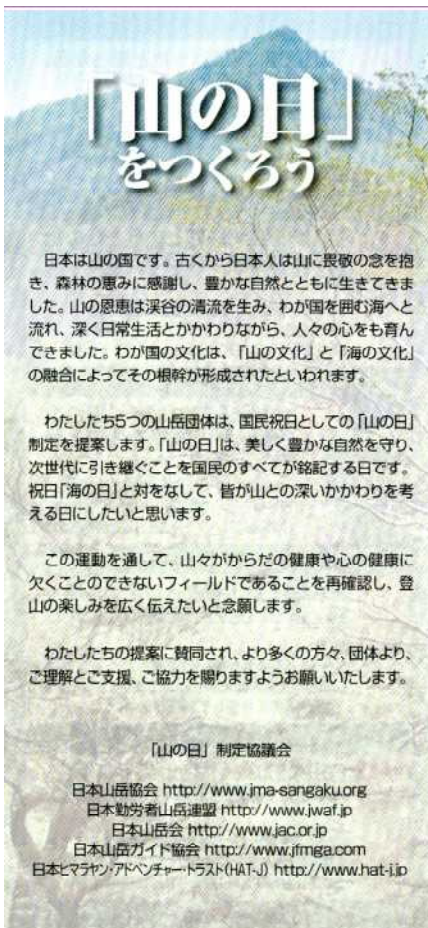
① 下る人のほうが早いので登ってくる人が待つ
② 登りのほうが体力の負担が大きいので下る人が待つ
③ 臨機応変に判断して対処する

5 山の中で体調が悪くなった仲間がいます。次のうち何をしておあげますか?

① 何かと頑張れるように、大きな声で励ます
② パーティーを離れ、一人で帰ってもらう
③ 休憩し荷物を仲間と分担して下山する

10 登山の前に、いざという時に備えてやるべき最も重要なことは何ですか?

① 登山届を提出して行動計画を各方面に伝えておく
② 携帯電話を持ち、どこからでも助けを呼べるようにする
③ 山岳保険に入ってから万のときに備える



「山の日」をつくろう

日本は山の国です。古くから日本人は山に畏敬の念を抱き、森林の恵みに感謝し、豊かな自然とともに生きてきました。山の恩恵は渓谷の清流を生み、わが国を囲む海へと流れ、深く日常生活とかかわりながら、人々の心をも育んできました。わが国の文化は、「山の文化」と「海の文化」の融合によってその根幹が形成されたといわれます。

わたしたち5つの山岳団体は、国民祝日としての「山の日」制定を提案します。「山の日」は、美しく豊かな自然を守り、次世代に引き継ぐことを国民のすべてが銘記する日です。祝日「海の日」と対をなして、皆が山との深いかわりを感じる日にしたいと思います。

この運動を通して、山々がからだの健康や心の健康に欠くことのできないフィールドであることを再確認し、登山の楽しさを広く伝えたいと願っています。

わたしたちの提案に賛同され、より多くの方々、団体より、ご理解とご支援、ご協力を賜りますようお願いいたします。

「山の日」制定協議会

日本山岳協会 <http://www.jma-sangaku.org>
日本山岳連盟 <http://www.jwaf.jp>
日本山岳会 <http://www.jac.or.jp>
日本山岳ガイド協会 <http://www.jimga.com>
日本ヒマラヤ・アペンドチャート社(HAT-J) <http://www.hat-j.jp>

オモテ面の答えです

1 ③ たとえ予報が0%でも雨具は必ず持っていく

「山の天気は変わりやすい」という言い伝えがあるように、たとえ目的の地域の予報が晴れであっても、雨に對する備えを忘れてはいけません。どんなときでも雨具は必要です。

2 ② 地図とコンパスで現在地を確認

ある程度訓練が必要ですが、地図を読みこなすこととコンパス（磁石）で方向を知ることは、自然の中を歩く基本技術です。いろいろな機会をみつけて大いに学びましょう。

3 ③ 平坦で風をさえぎることができる場所

風の当たる場所での休憩は、急激に体温を下げるので原則避けるべきです。また、平らで腰を下ろしやすい場所を選び、急斜面や落石などの危険のある場所は避けましょう。

4 ② 一番体力の弱い人に合わせて歩く

パーティー行動で重要なのは落伍者を出さないこと、メンバーがバラバラにならないことが大原則です。したがって、一番弱い人や体調のすぐれない人に合わせて歩くのが基本です。

5 ③ 休憩し荷物を仲間と分担して下山する

調子が悪い、あるいは疲労している仲間がいたら、その人の荷物を出来る限り軽くしてあげましょう。無理をせず、全員で来た道を戻って下山するのが賢明です。

6 ② 分かるところまで登り返して考える

道に迷ったと思ったらときの行動原則は、分かるところ・覚えているところに戻り、確認することです。また、戻る体力や自信がない時は、その場を動かないことが肝心です。

7 ① ヘッドランプ、救急医薬品、非常食

日帰りの山歩きでもヘッドランプや応急手当ができる救急医薬品は必要。日が暮れて、いざ野宿（ビバーク）をするための非常食、予備の水、防寒着も持っていきましょう。

8 ③ 事前にリーダーを選任し決定権を委ねる

瞬時に決断する際に多数決は混乱のもと、これぞと思う人を前もって選び、行動の決定を委ねましょう。無理なら、経験豊富な山のガイドさんを雇いましょう。

9 ③ 臨機応変に判断して対処する

登り優先が基本ですが、それは道を譲りやすい場合のこと。相手が団体だったり、クサリや梯子で避ける場所がない場合など、臨機応変に声をかけ、下り優先も選択肢です。

10 ① 登山届を提出して行動計画を各方面に伝えておく

登山口に、備え付けの登山届箱が、その地域の警察署に計画書を提出します。家族・友人にも渡ししましょう。万一のときの捜索範囲が絞り込みやすくなるなど、最も大切な「遭難への備え」といえます。

2011年 忘年の集い

園川陽造氏(No.5306)を新永年会員と褒章受章でお祝い

No.13532 馬場 基介



園川陽造永年会員を真ん中に記念撮影

所もあり、14時15分山頂到着、ここも2～3㌢の積雪がありました。小休止の後、下山。秦野元支部長の関係する「薬物植物園」横を通り、会場の河内温泉「あじさいの湯」に16時到着、それぞれ入浴し疲れをいやし、

平成23年12月10日(土) 17時30分から恒例の2011年忘年会が、北九州市八幡東区の河内温泉「あじさいの湯」で開催されました。

今回は、Aコース～皿倉山登山後、会場へ。Bコース～直接会場への2コースに分かれて集合しました。私は、Aコースを選び砂津から高速バスに乗り「帆柱ケーブル」で下車、集合場所のケーブル駅へ行きました。JR八幡駅を利用した方々などを含め、Aコース参加者は19人です。TRの関口氏、SRの横山さんの行程・注意事項伝達後出発。途中皿倉権現さんに安全祈願し、国見岩経由で山頂を目指しました。高度を上げるにつれ山道に雪が積もっていました。翌日の新聞で皿倉山初冠雪の写真が掲載されていました。

12時30分山頂到着、頂上は凍結していました。頂上展望台からの眺望は素晴らしく疲れを吹き飛ばしてくれました。記念撮影後凍結に注意しながら下山開始。12時50分昼食会場の「皿倉山ビジターセンター」に到着しました。センターにはJAC福岡支部の会員グループ20数人がおられ、席を譲っていただきましたが、北九州支部と同様、皿倉山～「あじさいの湯」で忘年会をするとのことでした。われわれも昼食をとりましたが、その時のセンター職員の心づかいに感謝します。

昼食後、13時35分忘年会の開会時間との関係で大回りして権現山(618㍎)経由で会場へ行くことに。このコースはよく整備されており途中皇后杉などの名

忘年会の準備にかかりました。

忘年会は、磯野さんの進行で定刻に始まりました。物故者に対する黙とう、開会の辞(山田)、伊藤支部長のあいさつの後、今年永年会員になられた園川陽造氏に対し記念品(図書「太田五雄著・悠久の屋久島」)の贈呈が行われた。なお、氏は11月、長年の社会貢献(自然公園保護)をたたえられ藍綬褒章を受章され、二重の喜びです。大城戸氏の乾杯の後、歓談に移りました。それぞれこの1年の山行の成果などを語られていました。宴も深まったころ、余興に入り、ビンゴゲーム・100円ジャンケン大会で盛り上がりました。記念写真の後、閉会の辞(関口)、全員で「坊がつる讃歌」を合唱し、2012年が良い年に成るよう祈念しました。

参加者

Aコース～皿倉山登山組 19人

原 広美 西村信子 瀧松禮子 馬場基介 関口興洋
横山洋子 高城季美子 丹下 治 大木康子
丹下香代子 大内喜代子 福田陽子 竹本加代子
赤瀬榮吉 坂本千佐子 室田安代 森本信子 大神信生
縄田正芳

Bコース～直接会場集合組 14人

園川陽造 日向祥剛 溝部忠増 大城戸昌敏 板倉健一
伊藤久次郎 磯野文雄 三宅清和 太田 満 山田武史
中岡邦男 小林富雄 坂本むつみ 縄手 修

合計33人

年次晩餐会、当支部新入会員4人壇上へ

平成23年度年次晩餐会は425人が出席して12月3日、東京・品川プリンスホテルで開催された。当支部から14人が出席し、そのうちの新会員3人に感想を書いていただいた。

年次晩餐会に参加して

皇太子殿下を間近で拝見し感激！

新入会員 No.14916 赤瀬 栄吉

頼まれていた帽子など数点購入しました。

展示会場の写真展には皇太子殿下の特別出品「ケニア山黎明」(H22年3月ケニア国訪問時撮影)

ほか40数点の秀作が展示され多くの会員が鑑賞していました。会場内に各支部の即売コーナーもあり、静岡県支部のコーナーでは富士山1,000回超登頂を達成した、實川欣伸氏著作の本「富士山に千回登りました」を購入しました。

晩餐会は席が自由ということで、私たちは伊藤支部長の「宮之浦岳」テーブルにつきました。

皇太子殿下が国事行為臨時代行中であり出席が危ぶまれていましたが、皇太子殿下入場のアナウンスがあると会場が一瞬どよめきました。私の席は、入場口に一番近く皇

太子殿下を間近で拝見できました。

尾上会長の挨拶で始まり、新永年会員発表では北九州支部所属の

団法人 日本山岳会 年次



新会員紹介で13歳代表(中学1年、宮城支部)があいさつ

12月3日(土)品川プリンスホテルで、北は北海道支部、南は宮崎支部から425人が集い、皇太子殿下御臨席のもと平成23年度年次晩餐会が開催され、北九州支部から伊藤支部長ほか計14人が参加しました。

当日は雨模様で会場には早めの到着、時間に余裕があるため団体行動組8人(翌日、茅ヶ岳・金ヶ岳登山)はフロントに荷物を預け、関口副支部長の案内で日本山岳会本部を訪問しました。

受付台帳に氏名、会員番号を記載し入室すると歴代会長の写真、発足時からの山岳会のバッジが

飾られ日本山岳会の歴史を感じました。

書庫には、山に関する書籍が約15,000冊書棚にビッシリ収められているのには驚きました。近郊の会員は手軽に利用できるのやましく思いながら本部を後にしました。

本部近くのラーメン店で昼食を済ませ、少し早めに会場入りしグッズ販売コーナーで



北九州支部のメンバー
前右端は当支部会友の森 武昭常務理事

園川陽造氏が紹介されうれしく思いました。

会長特別表彰は「富士山1000回登頂」を達成した實川欣伸氏(静岡支部所属)が受賞されました。受賞あいさつで「富士山4登山道連続一筆登山」を32時間弱で完走など記録達成までの道のりが語られました。

次に新入会員36人の紹介があり北九州支部から竹本正幸氏、木原允氏、佐野敦氏と私の4人がステージに上がり、皇太子殿下のお姿を間近で拝見でき感激しました。

新入会員代表あいさつは、お父様が会員で4歳の時から登山を始め、現在岩登りをしている13歳の少女、三上マリモさん(宮城支部所属)が愛らしくしっかりとあいさつされました。

開宴の前に皇太子殿下、谷垣自民党総裁、尾上会長ほか計6人による鏡開きが威勢よく行われ、齋藤惇生様の乾杯で開宴しました。

「宮之浦岳」のテーブルには伊藤テーブルマスターを中心に信濃支部古幡様、東海支部前田様・井藤様と北九州支部の5人で歓談が弾み有意義なひとときを楽しく過ごすことができました。晩餐会のおわりに谷垣自民党総裁と握手や写真を撮ったりし大いに盛り上がり、心に残る晩餐会でした。

晩餐会参加者(敬称略)

園川陽造(5306)、大庭常生(11395)
日向祥剛(11427)、板倉健一(13471)
伊藤久次郎(13499)、高畠拓生(13541)
関口興洋(13643)、山田武史(13992)
大石そなえ(14199)、小林富雄(14317)
竹本正幸(14852)、木原允(14875)
赤瀬榮吉(14916)、佐野敦(14984)

計14人

年次晩餐会に参加して

日本山岳会の歴史と偉大さを実感！

新入会員 No.14852 竹本 正幸

4月に本部会員となり、初めての年次晩餐会でした。

3日はホテルに到着後、受付時間まで時間があつたので8人で日本山岳会本部を訪ねて、図書館の山岳図書を見せていただきました。けた外れの蔵書であり、古い「岳人」にアラスカ遠征記録を探したが見つからず、近隣在住であれば何時でも来館できるののではないかと思ひながら後にしました。

晩餐会の会場では、登山用品販売コーナーも楽しみにしていましたが、コーナーが小さく商品の種類が少なかったようです。

各支部のコーナーには、支部出版の本が展示してあり担当者が応対。

静岡支部には人だかりができ、實川欣伸氏の図書「富士山に1000回登りました」をサイン入りで購入する人が多く、私も購入しました。

山岳写真の展示もあり、温暖化の進行によるヒマラヤでの氷河の衰退状況を写真で表示されたコーナーは興味深く拝見しました。

開会までは、別室に設けられたドリンクコーナーで歓談される方が多かったです。

開場後は、参加者400人強の会員が49の円卓に分かれて着席。山名のついた各テーブルにはテーブルマスター(各支部長)が先にいて、各人は好みの場所に着席できるようになっています。

18時、皇太子殿下のご臨席のもと晩餐会開宴となりました。

会長のあいさつでは、公益法人への移行に関連したこと、「新入会員を増やしてほしい」と強調されていたことが印象に残りました。

物故者への黙とう、新名誉会員、新永年会員の発表とあいさつ。永年会員では、北九州支部の園川陽造氏も紹介されました。

会長特別表彰は、富士山1212回登山の實川欣伸氏が表彰され、富士山4年連続200回以上登山、4登山道連続一筆登山、8連続登頂



各支部の図書などを販売するコーナー

など輝かしい記録と実績にただただ驚くばかりです。

最後に新入会員の紹介で参加者36人(北九州支部からは木原充氏、赤瀬榮吉氏、佐野敦氏、竹本の4人)が演壇に上がり、代表して13歳の女子中学生、三上マリモさんがあいさつを行いました。若者の山に対する思いに感動してつい涙腺が緩んでしまいました。

鏡開きと乾杯で開宴となり、それぞれのテーブルで懇親。

私事ですが、15年ぶりにランタン谷トレッキング時にご一緒した静岡支部の照内豊氏に再会でき、懐かしさにしばし歓談となりました。

北九州支部の皆さんは自民党総

裁の谷垣禎一氏と記念写真など和やかに囲らんしました。

品川プリンスホテルのワンフロ

アを貸し切ったの晩餐会、北海道から九州までの各支部から、参加者が一堂に集うというビックな

イベント。日本山岳会の歴史と偉大さを実感した晩餐会でした。

年次晩餐会に参加して(アフター山行)

深田久弥終焉の地「茅ヶ岳」山行と芦安山岳館見学

新入会員 No.14984 佐野 敦

数年前の10月、北九州支部の高畠さんに同行し、久住中岳に登山、登れるか不安でしたが、無事快適な登山ができ、素晴らしい景色、きれいな樹氷に感動しました。それ以来十分な時間がとれませんが、高畠さんや知人と地元の英彦山をはじめ、いろんな山行を楽しんでいます。

急登の連続のときなどは、「来るんじゃないかった、家でビールを飲みながら、野球でも見ていればよかった」なんて後悔しながら登っていますが、頂上に立ち、景色に感動し、下山後の温泉に入ると、また登ろ・・・と、はまります。

今年10月日本山岳会に入会、早速年次晩餐会とアフター山行に参加いたしました。

12月3日、参加者8人が羽田空港で合流(伊藤支部長は先発)、日本山岳会本部へ案内していただき記念撮影。その後、晩餐会会場の品川プリンスホテルへ。

晩餐会では、皇太子殿下もご臨席され、新入会員(36人出席)の紹介で壇上に立ち、皇太子殿下、谷垣自民党総裁、尾上会長を間近に見ることができ、一生の思い出となり、また山岳会の歴史の重さを感じ、身が引きしめる思いがいたしました。

翌日4日は、6:00ホテル出発。9:10登山口の深田公園(葦崎市)

で、本部常務理事の森 武昭氏(北九州支部会友)と合流。日本百名山の深田久弥公園の記念碑(百の頂きに百の喜びあり)を見学し、終えんの地である茅ヶ岳(1703[㍿])、そして金ヶ岳(1763[㍿])へ登山開始。林の中を快適に進み、1時間30分ほどで唯一の水場の女岩に到着。これより急な登りとなり、あえぎながら登る。山頂まであとわずかの地点に終えんの地の碑やケルンがありました。富士山を背にの登山です。素敵です。12:20茅ヶ岳山頂着。昨日の雨がウソのように快晴に恵まれ、山頂からは富士山、甲斐駒ヶ岳などの南アルプス連山、八ヶ岳が一望でき、視界を遮るものなく素晴らしい景色に感動。

屋食後、1時間15分で14:15金ヶ岳山頂。14:30金ヶ岳山頂から1時間50分ほどで登山口の明野ふれあいの里(北杜市)へ下山(長かった)。7時間12分の山行でした。下山後、山岳会の会員でもある長沢 洋オーナーの案内で温泉に

入浴後、オーナーの「ロッジ山旅」に宿泊。素敵なロッジでした。

最終日の5日も快晴、長沢オーナーの案内で南アルプスの景色を楽しみ、その後、「深田久弥没後40年展～南アルプスの日本百名山」開催中の南アルプス芦安山岳館を見学、素晴らしい写真などを堪能し、帰路につきました。



八ヶ岳をバックに快晴の茅ヶ岳(1703[㍿])山頂で。

今回は、同行されたみなさまに大変お世話になり、本当にありがとうございました。



南アルプス芦安山岳館(見学は森氏を除く9人)

茅ヶ岳参加者

森 武昭(会友)、伊藤久次郎、高畠拓生、関口興洋、山田武史、大石そなえ、小林富雄、竹本正幸、赤瀬榮吉、佐野 敦

計 10人

宮城支部主管 第27回全国支部懇談会に参加して 地震災害の無残な光景に涙

No.14691 平野 一幸



懇親会会場で

平成23年10月14日、北九州支部の山田事務局長と私は福岡空港に集合、11時30分東京に向け出発し、羽田空港に13時10分到着しました。

北九州空港から出発された伊藤支部長、関口副支部長、高島、原、濱松の各氏5人と宿泊先の品川プリンスホテルで合流しました。ホテルでは今後の登山の計画について打合せをしました。夕食は、横浜の中華街でとることに決まり、関口副支部長の案内で横浜に向けて出発しました。横浜では、69階建てで、日本一の高さを誇るランドマークタワーを見学しました。生ビールを手にしての180度の展望は素晴らしいものでした。見学が終わると中華街でおいしい食事をとりホテルに戻りました。

翌15日には、宮城全国支部懇に出席するため9時30分ホテルを出て、東北新幹線で宮城県に向けて出発。13時5分に栗駒高原駅に着き、送迎バスで会場のハイルザーム栗駒に向かいました。会場までの途中、道路の地割れが目

につきました。

3月11日の地震の大きさが想像されました。14時20分に会場に到着し、受付を済ませたところで、別便で来られた日向さんと合流し、北九州支部からの8人が揃いました。記念講演は15時からはじまりました。

演者は、東北大学大学院教授の風間基樹氏で、演題は「2028年岩手・宮城内陸地震、2011年東北・太平洋沖地震の地盤災害について」でした。講演はビデオの映像について解説がなされました。テレビのニュースでは見たこともない現場の無残な光景を見て涙が溢れました。復興が早期になされることを、心から祈らずにはおられませんでした。講演が終わり、18時30分から懇親会が始まりました。普段無口な私ですが、お酒の力を借りて、全国の支部の方々と会話ができて、楽しい時間を過ごすことができました。

宮城支部主管 第27回全国支部懇談会に参加して 濃霧で終点のバス停を見落とす

No.13992 山田 武史

宮城支部主管の第27回の全国支部懇談会が、10月15日(土)～16日(日)栗駒山の麓「ハイルザーム栗駒」で開催され、当支部から8人が参加した。東日本大震災による会場の関係から、先着120人に限定との広報もあって、当支部は早めに申し込みしたので全員参加できたが、参加を断念した支部もあった由。それでも、171人の参加にふくれ、懇親会の会場は2か所に分散の形となった。

15日(土)15時より、講演会(東北大学大学院 風間教授がスライドを使用して、「2008年および2011年の地震による地盤災害」の演題で講演された。17時より地元「猿飛来神楽」団による、神楽の演芸。18時半より懇親会。冒頭、高橋支部長がいさづかれ、「3月11日の東日

本大震災により、果たして支部懇が開催できるかどうか不安であったが、全国の皆様からの激励をたくさん頂き、お陰さまで本日開会を迎える事ができました」と感謝の言葉が述べられた。また、開宴となつてからは、初めての人が大半であったが、石川支部の方及び広島支部の方と懇親を深める事ができた。

16日(日)栗駒山への記念登山に145人が参加、7班に編成。当日はあいにくの雨模様でもあったので、スタート時間を繰り上げて6時30分にイワカガミ平の登山口をスタート。頂上までは濃いガスの中、雨混じりの強風にたたかれ、頂上での記念撮影もそこそこに、下山路に着いたが、直後、あの濃いガスは切れて、紅葉を散りばめた、素晴らしい景色が眼下に



蔵王山のいろは沼で

現れた。半分だけでも、素晴らしい景色が見られました。神に感謝です。明日は、当支部の7人が蔵王に登る計画のため、13時に「ハイルザーム栗駒」を出発し、蔵王温泉に移動した。

17日(月)08:30、蔵王温泉「竜山荘」を出発し、9時始発の蔵王ロープウェイ山麓線及びユートピアリフトに乗り継ぎ、観音平(終点)着。北五葉松の名所めぐり。散策路は草がきれいに刈られてお

り、それぞれの松には名前が付けられている。その中でも散策路から外れたところにある「天竜の松」は大きく一番立派だった。約一周して散策を終え、いよいよ蔵王の主峰の熊野岳に向けて登山道に登る。途中で草刈り中の作業の人がおられ

たが、それから先はササや雑草が登山道を覆い、熊でも出てきそうな雰囲気となり、先頭を歩く原さんは真剣に、熊追いの大きな声を出していた。登るほどに、雲は厚く、風は強くなってきた。雨はないものの、ガスも濃くなり、突風で体が飛ばされそうになる。途中のポイントのワサ小屋跡を11:20に通過したが、予定より30分遅れており、13時刈田岳発のバスに乗るためにも急がねばならな

い。その後、スピードアップして12:00熊野岳を通過できたので、12:40には刈田岳のバス停到着の見込みとなったので一安心。相変わらず濃いガスと強風の中、目印のポールに沿って熊野岳を下り、刈田岳を目指す。刈田岳山頂には予定通り12:45に着いたが、余りにも濃いガスのため、山頂の手前にあるバス停の建物を見落とし、山頂を過ぎ反対側に降り出したが、違うと感じて引き返し、神社社務所で確認の結果、無事5分前にバス停に到着できた。神に感謝です。

下山後、予定通り新幹線で東京に戻り、品川プリンスホテル泊。

18日 11:00 羽田空港で解散、北九州空港/福岡空港に分かれ帰路についた。

[参加者名]

日向祥剛(懇談会のみ)、原広美、伊藤久次郎、濱松禮子、高島拓生、関口興洋、山田武史、平野一幸

計 8人

東海支部創立50周年の記念式典に参加して

No.13643 関口 興 洋

23年11月5日(土)、名古屋で東海支部の創立50周年の記念式典と行事が開催され、山田事務局長とともに参加した。途中、偶然にも石原國利永年会員(東海支部名誉会員)にお会いし、名古屋駅から会場(今池ガスビル)までご案内して頂いた。

小川支部長の歓迎のごあいさつに続き、本部の尾上会長、日本山岳協会の神崎会長の祝辞がつづき、功労者の表彰が行われ、石原東海支部名誉会員が特別表彰された。

その後、記念行事が繰り広げら

れ、さすが実績のある東海支部ならではの多彩なイベントが展開された。木曾から招かれた20人のアルペンホルンの合奏は壮観であった。さらに「スイスアンサンブル・エンツィアン」の伊藤啓子のヨーデルの歌唱は見事であった。連邦ヨーデルフェストに招待された実力のほどをいかに発揮した舞台であった。いずれも初めて見る舞台は大変新鮮であった。

最後はプロスキーヤー佐々木大輔の講演で超人的な国内外でのスキー滑降の映像が紹介され、息を呑むシーンの連続であった。

引き続き、懇親パーティが開かれ北は青森支部、南は宮崎支部からの参加者を含め全国から多数の参加者が集い盛会であった。

以上



水彩画 高城季美子

東海支部創立50周年記念山行 鳩吹山(313[㍿])

山々にこだまするホルンのハーモニー

No.13992 山田 武史

平成23年11月5日(土)～6日(日)の両日にわたり、東海支部の設立50周年記念行事が開催され、当支部から関口副支部長とともに参加した。

5日の記念式典は、各種の表彰、映像での東海支部50年史、ホルンの演奏、ヨーデルの合唱、そしてプロスキーヤー佐々木大輔氏(札幌市在住)の講演は、北海道及び海外でのスキー滑降の映像も紹介され、迫力満点で大感激でした。

6日(日)の記念山行は、岐阜県可児市近郊の「鳩吹山(313[㍿])」の集中登山で5コースよりの入山です。ルートイン東別院の宿泊者は、全員川平コースを登ることになっており、ホテルで朝食後、07:15ホテルを貸切バスで出発。この時は、小雨が降っていたが1時間後に登山口に着いた頃は、雨もあがりよいコンディションになったと思っていました。

われわれ川平コースのメンバーは、ルートイン東別院に宿泊した、本部の尾上会長、吉永副会長と、地方から参加した青森支部の須々田さん、北九州支部の山田でした。東海支部からは、小川支部長、和田副支部長ほか総勢17人でした。登山口で、鈴木リーダーの指導により、準備体操で前夜のアルコールを発散後08:15に、鈴木リーダーを先頭に17人が隊列を組んで「鳩吹山」を目指してのスタート。

民家が点在する林道と別れ、登山道に入ると、いきなりの急登が続き、左手に木曽川の溪流が眺められたが、高度を上げるに従い、ガスが濃くなり、四井の景色は見えなくなった。若干色づきつつある間近の紅葉を楽しみながら、アップダウンのあるルートを必死に歩く標高313[㍿]の

低山と言えども、なかなか歯ごたえのある良い山でした。「鳩吹山」頂上で記念撮影後、東屋で小休止して歓談となりましたが、普通の雑談であっても、話している人は、尾上会長、吉永副会長、小川支部長、和田副支部長ですから、横で聴いているだけで幸せ一杯の気持ちとなったのです。つまり、日本山岳会には素晴らしい人がたくさんおられ、それが各地に散らばっていますが、ひとたび接触できると、そこから個人ベースまたは支部単位で交流の輪が広がっていくものと思います。私自身も東海支部の人を一人、二人と知る事により、自分の世界が一段と広がっ

た感じです。東屋から下山路に入ると、昨日聴いた「大桑アルプホルングループ」によるホルンの合奏の音が、山々にこだまして、素晴らしいハーモニーとなって聴こえて来ました。和田副支部長が「ヤッホー」を連呼すると、ホルンの合奏は一段と音量を上げて応えてくれました。約3時間の歩きで11時に下山しましたが、下山口では世話役の松本陽子さんがわれわれを出迎えておられて、びっくりし、感謝しました。5コースの全員が下山後、バスで懇親会場の「犬山ローレライ麦酒館」に移動して、ビールでの祝杯となりました。

青森支部の須々田さんと一緒にの席に座り、大いに喉を潤した後、13時発のバスで会場を出発し、名古屋駅で須々田さんと別れ、帰路に着きました。以上

2月・3月、小倉サロンの映画会

小倉サロンでは、2月から次のとおり映画を上映します。映画終了後は普通のサロンルームとなります。どうぞ、たくさんのお越しをお待ちしております。参加者は山田事務局長まで一報を。なお、4月のサロンは、総会のためお休みします。

2月22日(水)午後6時～

映画「カラコルム」

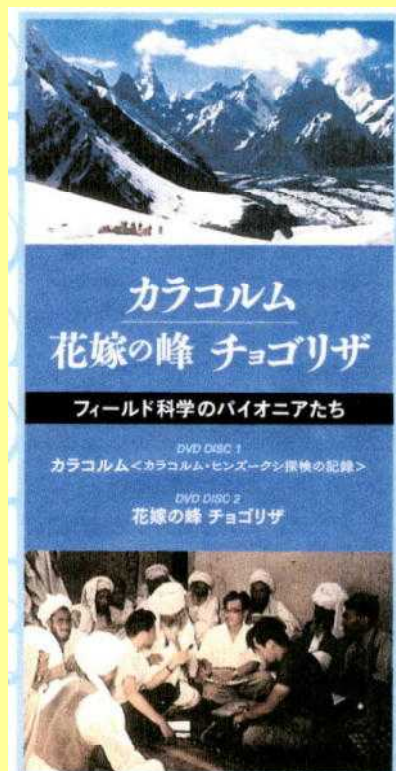
〈カラコルム・ヒンズークシの記録〉

日本/1956年/約79分/カラーDVD
京都大学カラコルム・ヒンズークシ学術探検隊/隊長 木原均/隊員 北村四郎・山下孝介・岩村忍・山崎忠・梅棹忠夫・岡崎敬・奈良弘美・中村誠二・今西錦司・松下進・藤田和夫・中尾佐助・原田直彦・林田重男/制作 日本映画社/音楽 黛敏郎・團伊玖磨

3月28日(水)午後6時～

映画「花嫁の峰 チョゴリザ」

日本/1959年/約75分/カラーDVD
京都大学学士山岳会チョゴリザ遠征隊
隊長 桑原武夫/副隊長 加藤泰安
隊員 藤平正夫・山口克・脇坂誠・中島道郎・平井一正・高村泰雄・岩坪五郎・芳賀孝郎・今川好則/制作 日本映画新社/音楽 芥川也寸志/解説 芥川比呂志



第2回女性専科に参加して

有意義を実感した一日

No.14853 竹本 加代子

11月3日、園川講師による第2回女性専科「シルバコンパスの使い方の実践～地図とコンパスで予定されたルートに戻るかの体験」、「筋肉疲労とその対策」がテーマの山岳技術講座に参加しました。参加者は女性10人、なでしこ見守り隊男性4人。

当日帆柱ケーブル山麓駅駐車場に9時集合。その日は大手の会社のイベントがあるとかで駐車場は満車状態であり、やっと駐車できた。まず、園川講師のあいさつの後、伊藤支部長から園川講師の藍綬褒章(公共の仕事の尽くした人たちへの表彰)のご報告があり拍手で祝福した。本当におめでとうございます。そして、毎回分かりやすく、かつ理論的で実践的な講習会のご指導ありがとうございます。これからもよろしくお願いいたします。

朝の天気予報では9月下旬なみの気温が予想され少々蒸し暑さを感じながら薄曇りの中、皿倉平を目指して皇彩の森コースをスタートする。皿倉の泉付近の大きな案内板のある所で休憩。その案内板に皿倉平まで920㍎、ふれあいの森まで520㍎とあり、その距離から標高の計算方法を教わる。

目的地までの距離から急なコースは3で、緩やかなコースは4で割り、コースは一定ではないのでその中間の距離を目的地の標高から引く(下りは足す)と現在地のおおよその標高が分かるとの事であった。新しい

情報であり、メモを取る人、メモを取らずともちゃんと理解できている人、立ち休憩の中説明を受けた。合わせて、①デットポイント(登り初めの30分前後のきついとき)②セカンドウィンド(登る事に余裕ができること)③ランナズハイ(登山という運動に順応して、さらに順化する)の説明を受ける。通常の登山で体が実感していることではあったが、初めて用語を通して体と理論が一致した。皿倉平10時40分着。

休憩の後、シルバコンパスを使つての講習が1時間20分行われた。



第2回男女混合で行われた事もあり、初めての人、2回目の人でもまず磁北線を入れる作業。西編6°の線を4㍎間隔に入れる。

(1万2500分の1の地図なので、4㍎は500㍎になる)次の作業が「整置」で、地図の磁北線の北とコンパスの北とを合わせ、地図の向きを固定したまま地図のまわりを動き、目標物をとらえるのであるが、磁北線が正確にひかれてないと、実際の風景と地図にズレが生じてくる。本来登山の前に磁北線を入れておくようにとの事であった。地図を読むに当

たって、この「磁北線」と「整置」の正確さが重要なことも実感した。さらに、目的地に正しく進む方法、元の場所に正確に戻る方法などを教わる。その後、現在地の探し方を教わった後に、場所をビジターセンターに移動して昼食タイム。昼食後、約1時間「筋肉疲労とその対策」について学習会が行われた。筋肉の種類、筋肉痛とはどのような現象か、その対策を理論的な説明で受ける。筋肉とはグリコーゲンの塊で、筋肉痛とは乳酸がたまる現象をいい、筋肉疲労がもっとも起こるのは山の下りだという。対策として乳酸をためない方法は、ゆっくり登ること。そのための休憩の取り方、歩幅の取り方、下りに衝撃荷重をかけない靴の選び方の説明を受ける。また、ベーターカロチンやビタミンCを取ると回復することを教わる。筋肉疲

労の仕組みを知り、その対策を学習してこれからの登山に生かしたいと思った。

シルバコンパスの使い方については、昨今の遭難の1番は道迷いと聞いている。シルバコンパスが使えるという事はそのリスクをなくすという事であり、使い方のスキルを習得

して自信をもって山を歩けるようになりたいと思

った。山岳技術講座に参加して本当に勉強になり有意義だったと思う。今回もまたそれを実感した1日であり、本当にありがとうございました。

参加者

講師～園川陽造

女性徒(10人)～原 広美、西村信子、濱松禮子、高城季美子、大木康子、大内喜代子、福田陽子、竹本加代子、森本信子、半田路子

男性(4人)～伊藤久次郎、関口興洋、山田武史、竹本正幸

個人、各グループの山行記

東北の100名山 5座をめざして

No.14523 榎 俊 一

今年(2011年)7月に北海道登山を無事終わり帰宅した後、反省会を開いたときに相棒の赤瀬榮吉氏(14916)が、次は東北に行きませんかとの話があり、10月の初旬より1週間で5名山を登るという計画表を見せられ行くことに決定しました。

今回は、赤瀬氏の計画で私との2人で東北の早池峰山、岩手山、八幡平、岩木山、八甲田大岳の100名山5座を登山することになりました。

第1日目(青森へ移動日)

10月5日(水) 晴れ。福岡空港を8時出発し、青森に11時25分着となりました。空港でレンタカー会社の受付をすませレンタカーのある場所まで移動し、岩手県の宮古市にある早池峰山荘まで220^{km}進んで行きます。さすがに青森です、道の横には真っ赤なリングがいっぱいになっています。途中スーパーで水や食料を購入し、交通量の少ない高速道路を岩手県の盛岡南まで進み、早池峰山荘へと行きました。この山荘は町営でキャンプ場もありますが、今日は我々2人だけで大きい部屋にすでに布団が引いてあり広々としていました。夕食の時間に食堂に入るとストーブがつけてあり、山の中にもかかわらず刺身があり、たくさんの山菜が豪華に盛りつけてありました。明日からの登山に対しビールで乾杯し、英気を養います。すいとんのみそ汁がおいしくおかわりをして腹一杯食べ、食後登山準備をした後早めの就寝となりました。夜中に雨の音で目が覚め確認したところすごいどしゃ降りでした。

第2日目(早池峰山登山)

10月6日(木) 雨。早池峰山荘で6時に朝食をとり登山口まで進んでいきます。当初の予定では河原坊登山口からの予定でしたが山荘で確認したところ、雨の場合は小田越のほうがいいとの話で、急きょ予定を変更し小田越登山口に向かいました。小田越登山道入り口の手前の空地に車を止め、カッパ着用で7時25分出発しました。

登山道はひどいぬかるみで、田んぼの田植え状態の登山道で、注意しながら樹林帯を進んでいき、5合目を8時35分通過して、鎖場の岩場を登り、風が強いため注意しながら



第5日目の岩木山山頂で、赤瀬氏(右)と

さらに岩場を進み、長いはしごを登り、剣ヶ峰との分岐を9時13分、山頂に9時26分到着しました。この早池峰山は2時間程度で頂上に達することができる山で、晴れていれば大勢の登山客でいっぱいになる山ようです。とくに6月から8月のハヤチネウスユキソウの季節は大勢の人が登るそうです。山頂はものすごい風で、写真を撮り山頂避難小屋に駆け込みました。避難小屋での温度計は1℃で、外は風が強く雨も降

っているため-5℃くらいになっているようです。ここで少し休憩し9時40分、強い雨風のため同じ道を下山することに決定し、慎重に岩場やぬかるみの道を下山して11時26分登山口に到着しました。非常に寒い日で登山で出会ったひとは6人くらいでした。車に戻り、河原坊登山口にある自然保護センター内で着替えと昼食を取り、明日の登山のための、85^{km}先の岩手山焼走り交流村へと車を走らせます。岩手山焼走り交流村は素泊まりのため、途中スーパーで夕食と次の日の朝食と昼食の3食分を購入していきました。

ここはログハウスの4人部屋で調理器具、冷蔵庫等の装備があり自炊ができるようになっていました。交流村センターの温泉に入り、ログハウスに戻り、雨にぬれたカッパ等をひもにつるし乾燥させながら、ビールで乾杯をして明日の英気を養って早めの就寝となりました。

第3日目(岩手山登山)

10月7日(金) くもり、雨。小屋を6時30分出発し、登山口駐車場に車を止め、6時43分焼走り登山口をカッパを着て出発しました。だらだらとした登りの道を進み、噴出展望台(火山の噴火による堆積した場所)から下の方は、所々晴れ間が見え虹がかかっています。ここから火山岩のガレ場の急登で、長い長い坂道で行けども行けども先が見えない山道を、息を弾ませながら進んでいきます。7月頃はコマクサの大群の場所ですが、現在は花はかれて葉っぱも白くなっていて、やっと1つ花が残っているのを見つけましたが、急登の連続に息が上がりカメラを出すのもおっくうになり、下山に写真を撮るぞと誓いながら前に進んでいきました。やっと8合目の避難小屋に10時31分到着し、寒さと疲れで長い

休憩時間と昼食を取り、11時5分出発しました。

頂上付近はものすごい強風と雨でストックで体を支えながら、11時45分ものすごい雨風のため写真も撮れず早々に避難小屋まで戻り、12時30分下山開始し、写真が撮れなかったコマクサの残り1輪を撮り下っていきました。登山口に15時25分到着し、車で着替えなどをして、近くの火山の噴火跡である焼走りを見学して、明日の登山地の岩手県八幡平市にある宿泊場所へと25^{km}移動しました。今日の宿泊施設は温泉付きで、食事も良く料金も安く、我々の山登りにはちょうどいい宿泊施設でした。

第4日目(八幡平登山)

10月8日(土) 晴れ。やっと晴れた朝を向かえ、6時30分朝食をとり、弁当をリュックに入れ八幡平へ出発です。アスピーテラインを車で上り、途中紅葉の素晴らしい場所が幾つもあり、写真を撮るため一時駐車、素晴らしい景色に感激、更に進み茶臼岳登山口から入山する赤瀬氏を降ろし、さらに車で黒谷地の駐車場に車を止め、ここから1人で黒谷地登山口を7時18分登山開始しました。ここは木道が整備してありストックのゴムなしでは使えません。ストックをリュックにしまい、茶臼岳方面との分岐を通過して、源太森を通過したときに雨が降ってきたのでカッパを着用中、急にアラレとなり寒さが強くなってきました(温度約5℃)。

八幡沼を通過し、八幡平陵雲荘の避難小屋を過ぎると、軽装の団体さんのハイキングと多くすれ違いながら、見晴らしの良くない平らな山頂に8時25分到着しました。山頂の表示がある場所は団体さんでいっぱい、写真を撮るのが大変な混雑で、順番待ちの状態でした。やっと写真を撮り三角点を確認し避難小屋まで戻り、赤瀬氏と合流後、雨もやみ

11時55分避難小屋を出発しました。

黒谷地登山口に12時15分着となり、車の中で昼食をとり、青森県弘前市のビジネスホテルまで135^{km}を高速道路を利用し進みます。今日のホテルは明日の朝食のみのため、途中のスーパーで夕食と明日の昼食を購入し進んでいきました。ホテルで夕食をして、早々と明日のため就寝しました。

第5日目(岩木山登山)

10月9日(日) 晴れ。ホテルで朝食後6時30分車で岩木山神社の近くの駐車場で登山準備を行い、岩木神社を7時31分に登山開始しました。神殿で登山の無事をお願いし左手の登山口に行くと、山頂まで4時間15分の標識を横に見ながら焼石に9時2分、焼止りヒュッテの避難小屋に10時、これから坊主ころがしといわれる谷沢の岩がゴロゴロしている場所の急登を息を弾ませながら登り、錫杖清水の水で一息いれ、更に火山ガスの硫黄の臭いがする急登の山道を進み、鳳鳴ヒュッテに下



第6日目の八甲田大岳で

げてある鐘を鳴らし休憩します。ここ鳳鳴ヒュッテまでは別ルートで来ることができ、車でスカイラインに8合目、更にリフトで9合目から頂上まで約30分で行くことができるため、多くのスニーカーや革靴のハイキング客が訪れるところ。岩場の頂上を二つ登り、頂上に12時到着しました。

今回初めての晴れで山頂は広く、

神社や避難小屋などがあり、360度の大展望で、西に日本海や沿岸の街並み、北には北海道の山、東には八甲田山の山々、南には白神山地の山々を望むことができ、本州最北端の最高峰を満喫しながら昼食をとりました。12時40分下山開始し、また同じ道を長い時間かけて危険な岩場を慎重に下山し、途中焼止ヒュッテ避難小屋に休憩し、15時登山口につきました。車に乗車し、今回最後の登山となる八甲田方面35^{km}の青森県黒石市の民宿に向かいました。今日の民宿は温泉付きで、夕食も素晴らしく料金も安くてとてもいい宿でした。

第6日目(八甲田山登山)

10月10日(月) 晴れ。朝食をすませ、温泉で全国的に有名な酸ヶ湯温泉を目指し出発しました。歴史のある温泉らしく、大きな造りをした立派な建物があり、多くの人でにぎわっていました。温泉の上方にある駐車場に車を止め、木の鳥居と八甲田神社登山口と書かれた標示のあるところから登り始めました。ここには日本山脈縦走起点、青森県八甲田-山口県秋吉台五千キロ踏破の標識があり、5000^{km}とは圧倒されました。

樹林帯の登山道を進んで行くと、道はどろどろのぬかるみです。登山靴はどろどろで、非常に歩きにくい登りの登山道で、北海道のトモラウシを思い出しました。道の整備はちゃんと整備されて所々に酸ヶ湯から〇km、八甲田大岳まで〇kmの標示があり、非常にわかりやすく標示されています。更に進んでいくと地元の人と思われる男性2人、女性4人のグループと遭遇し話をしていると全員が長靴で登っています。聞くとこの八甲田山は長靴が一番登りやすいのだそうで、われわれに何で登山靴を履いてきたのだと言われました。長靴でどだどたと歩くので、余計に

ぬかるんでいるようでした。雪中行軍ならぬ泥道行軍でした。こんなことは地元のものでないとわからねーよ！

更に進み、硫黄臭が漂う登山道を登ると、仙人岱と言われる木道の湿原に入り、更に進むと八甲田清水と呼ばれる場所に9時12分到着し、しの休憩です。木柵に囲まれたところから冷たい水がコンコンと湧き出ており、大勢の登山者がここで休憩しています。休憩後しばらく行くと木道も終わり、右に小岳、高田大岳への道、左が八甲田大岳の分岐があり、八甲田大岳方面へと進んでいきます。これから先は急登の岩場で更に進んでいくと急に風が強く吹き出し、ストックでバランスを取りながら、寒さと風よけのジャンパーを着て帽子がとばされないようにして強風の岩場を登って行きました。10時に頂上に到着し写真を撮り、回りはガスで見えず強風と寒さのため早々に反対側の毛無岱方面へ下って行きました。大岳ヒュッテ避難小屋に10時16分通過し、延々と続く木道階段を下りると毛無岱があり、木道の途中に休憩所が設置してありました。この場所付近では風も収まり、回りを見渡すと八甲田の素晴らしい紅葉に感激しながら写真を撮り、更に木道を進むと紅葉の見える場所が現れ、そのたびに写真休憩となり、酸ヶ湯温泉横に12時20分無事下山しました。ここには靴洗い場があり登山靴を手入れして車に戻り、昼食を取り名物の酸ヶ湯温泉に入りました。この温泉は硫黄泉で洗い場はなく、石けんも使えなく、ただ汗を流す程度ですが非常にいい温泉でした。駐車場を14時7分に最後の宿泊場所である青森市内のホテル(30^ホ)に向かいます。

青森市内のレンタカー会社に車を返納し、ホテルに到着後は荷物の整理をした後、市内見物と夕食を取りゆっくりと休みました。

7日目(福岡へ帰宅)

10月11日(火) 晴れ。ホテル

でゆっくり朝食後、バス乗車の時間まで市内(ねぶた館など)を見学し、青森空港を出発し羽田で乗り換え後福岡に15時10分到着、赤瀬氏と別れ帰宅しました。

今回は5日の登山中晴れたのは2日で、雨2日、強風1日とあまりい

い登山日和とはいかなかったけど、東北の紅葉に遭遇して感激。やはり東北の10月は寒くて風が強く、早めの6月～9月初旬のころがいいようです。秋田、岩手の5名山に登り、綺麗な紅葉に遭遇し満足した登山でした。

夏休み特集

イタリア・ドロミテ最高峰 マルモラーダ(3343^メ)に登頂して

No.11990 原 広美

平成23年8月17日、4組の老夫婦8人がミラノマルペンサ空港に到着した。翌日、私たち8人は9人乗りのレンタカーに乗り込み、一路1週間滞在予定のドロミテへ。

8月19日、マルモラーダ登頂の足慣らしとして、みんなでサッソロンゴを左手に見ながらオルテセイ・アルペデシュウジまでトレッキングをする。

20日、明日は天気がいいのでマルモラーダに行きますとガイドのマニエル・アロンソさんから連絡が入り、コースや装備の説明にホテルまで来ていただく。初めての体験なので不安と期待でいっぱいだった。このとき既に、マルモラーダの参加は2人に絞られていた。というのは、日本滞在中にマルモラーダは氷河があり、また岩登りのヴィアフェラータがあり、アイゼンやピッケルの経験がなければ参加はダメであることを聞かされていたからである。

21日早々に朝食をすませるとマニエル氏がマイカーで迎えに来てくれた。皆さんの見送りを受けて伊藤支部長と一緒におよそ1時間かけて登山口のあるフェダイヤ湖2057^メまで行く。不安定な立ったままの鳥かごのゴンドラに乗ってマルモラーダ登山口まで行く。大理石の滑りやすい岩石を歩ききると氷河の末端に着く。この付近から10本つめのアイゼ



マルモラーダ(3343m) 版画 伊藤Q

ンとハーネスを装着。そしてアロンソさんが私たちとザイルをつなぐ際、いざという時のために自分の胸元のザイルに、園川講師から習った見覚えのあるスリングでの結びを見た。アロンソさんに「この結びはマッシャーじゃないですか」と片言英語で尋ねると「そうだ、マッシャーだ」と答えた。

気温が高いせいかシャーベット状の氷河を歩く。滑りやすく1歩づつ慎重に登っていく。ガイドさんの後ろから遅れないよう登っていくと、



鳥かごリフトで登山口へ



マルモラーダの山頂付近

ガイドが後ろを振り向き、にっこり笑ってピアーノ(ゆっくりでいいよ)とジェスチャーで会話をする。氷河の中ほどにクレバスがあるので、落ちないよう思いっきりひとまたぎする。トラバースを過ぎると今度はヴィアフエラータの岩溝に入る。テレビでは何度も見ていたが初めてヴィアフエラータを経験、カラビナを鉄線にかけ換えながら手足の力を振り絞って登りきると今度は雪田に出る。

再度アイゼン装着。山頂が見えるがあと30分とガイドが言う。30分以上時間がかかりやっと山頂3343mへ到着。山頂には鉄骨の大きな十字架があり、また山小屋もある。真っ赤に日焼けした若いイタリア人の登山者がたくさん休んでいる。

山頂からの眺めは360度のパノラマ。北側に目をやると雄大なセラ山群がどっしり構えている。山頂では日本からきた私たち2人をジャポーネと言って歓迎してくれる。マルモラーダだけでなくどこに行っても小

さな子供たちまでも親切に対応してくれる。カプリ島に行って理由がなかった。「頑張ろう日本」「頑張ろう東北」の旗が日本語でかけてある。とても親日派だ。

下山は急な斜面をステッキ1本で氷河を下る。若いイタリア人が飛ぶようにまたすべるように我々を追い越していった。後方から伊藤支部長が足にもっと力を入れて…とアドバイスをいただくが、どうしても左足に力が入らない。年齢の限界を感じました。

10年前フェダイヤ湖に行ったとき山頂を見上げながら、いつかマルモラーダ山頂に登りたいと思っていた。

H21年10月号のJAC会報「山」に、マルモラーダ登頂

の報告書を越後支部の田中純夫さんが書いておられましたので、ご自宅まで電話して奥様から山の様子を詳しく聞きました。‘大丈夫行けますよ’の一言で希望を持ちました。今年の

年齢がラストチャンスでした 田中様に感謝です。

25日はマルモラーダ山頂から良く見たセラ山群の最高峰ピッツボエ3152mに4人で立った。そして26日ボルツアーノに住居を構えるメスナーの古城を訪れた。山岳博物館になっており、城から街が一望できる。

「ヒマラヤ、運命の山」が日本で放映される前だったので、ぜひ行きたかった計画になかったが、義弟に無理にお願いして館まで行くことができた。

残り16日間は、レンタカーでイタ



ドロミテ最高峰のマルモラーダ山頂で

リア国内を走りまわって9月9日帰国。私が登れるヨーロッパアルプスをたっぷり楽しんでできました。北九州支部の若い会員もどんどん海外の山に挑戦されたいかがでしょうか。

昨年の思い出

まつもと ゆきお

松本徭夫先生 偉大な生涯に学ぶ

No.13722 藤田 傳

去る7月23日、福岡国際ホールで松本徭夫先生追悼会(偲ぶ会~122人参加~)に参加して「松本徭夫先生の思い出」「九重山の花暦」を、そして「九重の自然」嶋田裕雄著(釜ノ口温泉小野屋旅館の主人公であった。現在「九重の自然を守る会」の会長をされている)など九重に関する本を楽しく読みました。先生は九州の山から南極、中国、シルクロードそして九重の山へと

原点回帰の旅路を辿られました。「思い出集」(文中より)、「九重の自然」(文中より)、坊ガつる讃歌と九重高原のススキの端唄をご披露して先生の追悼と致します。

「坊ガつる讃歌」は、去ってゆく冬山鎮魂の歌であり、さらにそれは命燃ゆる春の野を招請する願求の歌だからである。

「九重高原のススキ」の端唄
露は尾花と寝たと云う
尾花は露と寝たと云う
あれ寝たと云う 寝ぬと云う
尾花が穂に出てあらわれた

~安政のころからはやったと云う端唄である~

◇◇◇ 報告・お知らせなど ◇◇◇

2012年度 通常総会のお知らせ

と き：平成24年4月28日(土) 14時から
 ところ：ホテル ニュータガワ (小倉北区)
 記念講演は、今年1月、アコンカグアに親子
 で挑戦した武永計介会員の体験記を予定してい
 ますのでご期待下さい。

会務報告

平成23年11月 定例委員会報告

日 時：平成23年11月2日(水曜日) 18:30~20:30
 場 所：小倉商工会館 3F 会議室
 出 席：伊藤、関口、馬場、山田、江頭、原、濱松、
 磯野、高島、中岡、藤田、池田
 欠 席：日向、板倉
 議 題

1. 支部長会議の報告

平成23年6月18日(土) 開催 (伊藤)

2. 会員の異動と会費納入状況について (磯野・馬場)

3. 山行・行事報告

9月17日(土)~18日(日) 九重連山一斉登山 (山田)

10月1日(土) 皿倉山(園川講師による山岳技術専科) (山田)

10月15日(土)~16日(日) 全国支部懇談会(宮城支部主催)
 (山田・関口)

10月25日(土) 金山登山(花乱の滝~坊主ヶ滝) (山田)

10月25日(土) 「山のトイレ」協議会

場所：さざんびあ博多 (山田・伊藤)

4. 山行・行事計画

11月 3日(祝) 皿倉山(園川講師による女性専科) (山田)

11月 5日(土)~6日(日) 東海支部50周年記念行事 (山田)

11月 5日(土)~6日(日) 第27回宮崎ウェストン祭 (山田)

11月11日(土) 山行委員会 (原)

11月19日(土)~20日(日) スキー部合宿 (池田)

12月 3日(土) J A C 平成23年度年次晩餐会 (山田)

12月10日(土) 皿倉山登山及び支部忘年会
 あじさいの湯 (山田)

平成24年

1月15日(日) 皿倉山(園川講師による山岳技術専科) (山田)

1月22日(日)~25日(水) 白馬でのスキー (山田)

1月24日(火) 鶴見岳登山 (山田)

5. 支部報の発行について (伊藤)

6. ホームページの開設の進捗状況について (江頭)

7. その他

平成23年12月 臨時委員会報告

日 時：平成23年12月22日(木曜日) 18:30~20:30

場 所：小倉商工会館(3F 会議室)

出 席：伊藤、板倉、関口、山田、原、馬場、磯野、
 中岡、高島、藤田

欠 席：日向、江頭、浜松、池田

議 題

1. 公益社団法人への移行に伴う平成24年度事業計画 および事業別予算

(1) 平成24年度事業計画について審議した結果、原案を了
 承した。 (山田)

(2) 平成24年度事業別予算について審議した結果、原案を
 了承した。 (山田)

2. 支部規約改正(案)

・支部規約について、本部から1月に送付される支部規約
 案を待って、再検討することとなった。 (山田)

3. その他

・山行計画について、日程の調整を行い、原案を了承した。
 (山田)

第27回宮崎ウェストン祭に3人参加

日本近代登山の父として知られる英国人宣教師ウォル
 ター・ウェストン師を偲び、山岳遭難者に哀悼の意を表
 し、登山の安全を祈るため第27回宮崎ウェストン祭が、
 平成23(2011)年11月5日(土)、午後4時から宮崎・三
 秀台のウェストン碑前で、高千穂町と日本山岳会宮崎支
 部の主催で式典がとり行われた。当日は朝から雨模様で、
 式典ができるかどうか心配されたが、幸い式典の間は雨
 も止み、無事式典を終えることができた。

その後、午後5時30分から、五ヶ所野菜集出荷場で
 交流会が行われ、神事のあと伝統芸能が披露された。会
 場にはバザーや特産物展示即売、キャンプファイヤーが
 行われ、恒例の焼酎のかっぽ酒がふるまわれた。午後8
 時から宿泊地の「ひめゆりセンター」公民館で、九州5
 支部の懇親会が行われた。当北九州支部からは3人が参
 加した。翌日の記念山行は、宮崎支部と熊本支部だけの
 参加となった。(伊藤Q)

(式典参加者) 溝部忠増、伊藤久次郎、高島拓生
 計3人

第46回英彦山山開きは5人参加

平成23年5月29日、第46回英彦山山開きが行われ、
 当支部から5人が参加した。当日午前8時40分、別所
 駐車場を出発。途中、奉幣殿社務所に立ち寄り、日向
 会員が御神酒を奉納。この時から雨模様となり、10:40
 中岳山頂に到着した。11:00から上宮社殿で山頂祭(神
 事)がとりおこなわれ、玉串奉奠では北九州支部を代
 表して私(高島)が、安全祈願万歳三唱では日向会員が
 おこなった。神事終了後下山し、奉幣殿社務所の2階

参集殿で13:00~14:40にわたって、高野山真言宗僧侶・家田莊子氏の講和を拝聴した。(高畠拓生)
(山開き参加者) 日向祥剛、高畠拓生、丹下 治、
丹下香代子、赤瀬榮吉

古処山(860[㍿]) 交流登山

宮崎支部と北九州支部

宮崎支部が平成23年7月の夏休みに行う予定の、第14回子ども登山教室(古処山登山)の事前下見登山のため5月21日、末永支部長以下4人が福岡県嘉麻市に來られた。当北九州支部からも4人が出迎え、同市筑前山田の梅林公園や三高山山小屋を案内。同山小屋で交流会を開き宿泊。翌日登山教室の舞台である古処山登山を実施した。ルートは秋月キャンプ場登山口(10:00)から登り、古処山頂に12:09到着。15:00下山後、甘木健康ランドで汗を流し解散、宮崎支部とお別れした。(高畠拓生)
(参加者)

宮崎支部4人~末永軍朗(支部長)、岡本真理子(副支部長)、日高宗平、海野奈美子
北九州支部8人~原 広美、伊藤久次郎、濱松禮子、
高畠拓生、関口興洋、山田武史、
竹本正幸、竹本加代子、

宮崎支部の子ども登山教室に参加

宮崎支部の行事である第14回子ども登山教室が7月31日、前回(5月21日)下見登山で登った古処山で行われ、宮崎から小学校6校、中学校4校の生徒合計29人と宮崎支部会員22人が参加、北九州支部からも私高畠1人を含め合計52人が参加した。登山は一部コースを変更しながらも、全行程を案内した。

下山後は、国立青少年教育振興機構の国立夜須高原青少年自然の家に入所し宿泊した。その夜、自然の家では野外活動として「きもだめし」や、フィールドビンゴなどで過ごした。そして翌日13:20退所式があり、子ども達と宮崎支部に別れを告げた。

今回の宮崎支部の取り組みは数年前から実施しているもので、父母の参加は禁止。子ども達だけなので、子ども同士で友達になり助け合いの姿が見られ、大変よかった。(高畠拓生)

第1回博多サロン開く。3カ月に1回

現在、毎月第4水曜日に小倉で開催している通称「小倉サロン」を、福岡・博多地区の居住会員も参加しやすくするため、福岡市吉塚駅近くのサンヒルズホテル内の居酒屋「呑多来」(どんたく)で3カ月に1回、第1木曜日午後6時半から「博多サロン」として開催していくことになり、その第1回「博多サロン」が、11月17日(木)に開催された。当日は、門司から八女まで会員13人が集まり、小林幹事の司会で進められ、久しぶりの再会に話が弾んだ。

なお当日は、私伊藤の叙勲祝いも兼ねて行われ、皆さ

んから喜びの言葉とお祝いを頂きましたこと、厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。(伊藤Q)

次回の博多サロンは、平成24年2月2日(木)の予定。
(参加者) 大楠益弘、伊藤久次郎、関口興洋、宮城尚志、山田武史、大石そなえ、中岡邦男、小林富雄、榊 俊一、平野一幸、竹本正幸、赤瀬榮吉、伊藤トモエ 計13人

英彦山・日田を語るシンポジウム(添田町)

「歴史的に深いつながりがある添田町英彦山と大分県日田市の過去を学び、未来に向けた新しい交流を考えようと、『ふる里再発見 英彦山・日田を語るシンポジウム』(添田町観光ガイドボランティアなど主催、西日本新聞社など後援)が、昨年9月23日、同町庄のオークホールで開かれた。約450人の聴衆が訪れ、文化や信仰など両地域のつながりを紹介する講演やパネル討論に耳を傾けた。江戸幕府直轄の天領で九州の政治経済の中心地だった日田と、山伏の修験道として知られた英彦山は、岳滅鬼峠を挟んで南北に隣接。以前は経済交流が活発で、明治初期には英彦山が日田県に編入されたこともあった。」(9月24日 西日本新聞から)

当日のシンポジウムは、英彦山花駅に勤務する観光ガイドボランティアの早田ご夫妻の案内で参加した。まずは、日本山岳修験学会の長野覚顧問による基調講演「英彦山と広瀬淡窓について」で幕を開け、日田で私塾「咸宜園」を開いた淡窓は、1810年に英彦山神宮を参拝した。その後は英彦山地区から咸宜園入る生徒が増え、両地区で非常に密接な関係があったと指摘した。パネル討論では「今は登山者以外は使わなくなった岳滅鬼峠を、今後文化遺産としていかに守るか」また、「九州の内陸部に文化と信仰の中心があった英彦山と日田をもっと意識し交流を深めたい」、「JRには、日田英彦山線というそのままの路線が有り、これを今後大いに活用すべき」などの意見が出た。(伊藤Q)
(参加者) 西村信子、西村俊二、小林富雄、
伊藤久次郎、伊藤トモエ 計5人

「英彦山の環境・トイレを考える 連絡協議会」が発足 第4回 山のトイレに関する情報交換会(英彦山・花駅)

平成23年12月9日(金)英彦山花駅で、第4回山のトイレに関する情報交換会が参加者11人で開かれた。今回は、この会の名称と役員や事務局についての話し合いがなされ、名称については「英彦山の環境・トイレを考える連絡協議会」に決まった。会の役員は、会長1人、副会長を外部と地元を含め4人に、事務局長1人、事務局員1人の体制が内定した。候補者も内定したが、はっきり決まるのは1月中旬の予定。連絡協議会が発足後は、請願や陳情先およびその内容について検討する。そして賛同団体からの同意と名簿の作成。請願と陳情を行う。さらに英

彦山のトイレ設置に関する会の動きや情報は、適宜英彦山の地元住民につないで理解を深め、地元自治会に提供する。以上の方針案で活動が続けていくことで意見が一致した。今回は、参加者から出された

意見はすべて建設的で、反対や疑問を呈するような意見はなく、全員「英彦山上部にトイレが必要」との認識であると思われた。(伊藤Q)

支部報がJACのホームページに

かねてから北九州支部のホームページをいかに作るかどうかで検討していたが、自前のホームページは多額の費用がかかることから、本部のホームページを利用することになり、その中の支部欄に昨年末、本部の計らいで当支部の支部報をPDF形式で掲載することになった。現在「JAC北九だより」の57号、58号、59号(予定)をオールカラー(写真)で掲載している。これを見るには、まずインターネットで日本山岳会のホームページを開く。そのトップ画面の項目の日本山岳会の活動案内の中の支部を開く。その中の九州エリアの中の北九州支部を開く。そして「支部報アーカイブ」をクリックすると出てくる。参考までに資料室の中の支部の山をクリックし、北九州支部の山を開けば、私伊藤Qの版画「英彦山」シリーズが見られます。どうぞ見てやって下さい。

新聞報道記事2題

園川 陽造 会員

(No.5306、永年会員)

34年間、自然公園指導員として社会に貢献したことが認められ、昨年秋、藍綬褒章を受章された。さらに昨年12月の日本山岳会年次晩餐会で永年会員になられ、二重の榮譽となった。

石原 國利 永年会員

(No.5180、東海支部名誉会員)

北九州支部創立10周年記念式典のおり、尾上会長と出席いただき、会長から石原氏を氷壁のモデルであると紹介し、ナイロンザイル事件の講演をしていただいた。さらに「氷壁」の映画DVDを頂いた。

藍綬褒章
自然公園指導員
園川陽造さん 73

山に魅せられ、守る活動を続けて34年。「当たり前」のことにしてきただけなのに、驚くやら、ありがたいやら……と笑顔をみせる。小学5年の時、英国人登山家にあこがれて、登山を始めた。選手や監督として国体にも出場した「山の達人」だ。

ごみを捨てる人や希少植物の盗掘などに心を痛め、1978年、「注意を素直に聞いてもらうには肩書が



「当たり前」の事を続けただけ」と語る園川さん

山に魅せられ環境を守る

あつた方がよい」と自然公園指導員の委嘱を受けた。以来、九州北東部の「耶馬日田英彦山国定公園」を中心に盗掘防止の巡回やごみ拾い、マナー指導などを続けている。希少植物の群生地を守るため、森林管理署などに呼びかけて登山道を迂回させたこともある。「100人のうち5人でも心に響いてくれれば、そこから意識が波及していく。いずれ、みんなが環境保護に気を遣ってくれるようになればうれしい」と話す。(北九州市八幡西区)

毎 日 新 聞 2011年(平成23年)8月8日(月)

〔第3種郵便物認可〕

石原 国利さん(80)＝直方市



写真や資料で事故当時を振り返る石原さん

作家・井上靖(1907～91年)と出会ったことで山岳小説「氷壁」の主人公、魚津藤太のモデルになった。中央大4年だった55年1月、山岳会の学生仲間3人で北アルプスの前穂高岳(3090m、長野県)を目指したが、頂上の手前でナイロン製ザイルが切れ、若山五朗さん(当時19歳)が転落死した。若山さんの実兄で登山家の故・石岡繁雄さんの調査で、同時期に前穂高岳だけでも類似の事故が2件あったことが判明。「ナイロンザイルは鋭角の岩に弱い」との見解を提示したがメーカ側は「強度は適正」と主張し不正な実験結果を公表。事故原因をザイルのせいにしたと疑われ、リーダーの石原さんらは世間から責められた。工学部卒の石岡さん

小説「氷壁」のモデルに

が56年、メーカの主張に反論する独自の報告書を作成。それが知人を介し井上の手に渡った。「近く新聞に連載小説を書く。あなたの出来事を材料に使わせてください」。同年9月、東京の井上宅に呼ばれた。「事故原因が究明されるなら、若山五朗さん(当時19歳)が転落死した。若山さんの実兄で登山家の故・石岡繁雄さんの調査で、同時期に前穂高岳だけでも類似の事故が2件あったことが判明。」「ナイロンザイルは鋭角の岩に弱い」との見解を提示したがメーカ側は「強度は適正」と主張し不正な実験結果を公表。事故原因をザイルのせいにしたと疑われ、リーダーの石原さんらは世間から責められた。工学部卒の石岡さん



転落事故が縁で井上靖と交流

「得難い貴重な経験の連続」と振り返る。ザイルの件はその後、実験の不正が判明し自身への疑いも晴れた。だが「きつかけは、あってはならない出来事。転落死した若山君のことを思うと複雑です」。亡き友への思いは今も尽きない。

【高橋克哉】

しい」と直談判したが「井上先生は私が書いているのは小説。動善悪悪ではないのだから……」と困った顔をしていた」と語る。

大学卒業後、直方に帰郷し、家業の装粧品卸業を継いだ。井上との交流は続く。井上をヒマラヤへ誘い「星と祭」の題材を提供したり、「あすなる物語」の映画化では主人公の住まいにかつての下宿先の建物映ったりしたことも。

井上との付き合いを「得難い貴重な経験の連続」と振り返る。ザイルの件はその後、実験の不正が判明し自身への疑いも晴れた。だが「きつかけは、あってはならない出来事。転落死した若山君のことを思うと複雑です」。亡き友への思いは今も尽きない。

山行計画のご案内

日程の変更について

1. 山岳技術専科は、1月21日(日)へ

1月の第3回山岳技術専科の日程を1月15日(日)としておりましたが、講師の都合により1月21日(土)に変更いたします。

2. 英彦山清掃登山は、4月22日(日)へ

3月25日(日)の英彦山清掃登山は、4月からの新法人移行問題などにより中止し、新年度の4月22日(日)に変更いたします。25日の代わりは竜ヶ鼻登山をいたします。

1月の山行

1. 山岳技術専科(皿倉山)

第3回テーマ 「雪上救助技術の実践」
「低体温症等の処置」ほか

と き 平成24年1月21日(土) 9時～15時
場 所 皿倉山ビジターセンターNP0自然愛護会
研修室および国見岩付近
(積雪の状況により変更もありえる)
集 合 午前9時、帆柱ケーブル山麓駅駐車場予定
行 程 山頂・国見岩付近まで登山(約50分)、途中実技講習。研修室で実技のまとめや質疑(昼食)など。
講 師 園川陽造氏(No.5306 当支部会員、日本体育協会公認上級コーチ及び山岳マスター)
申込み 竹本正幸(TEL 0930-28-9611)
〆切り 1月20日まで
※ ビッケル、アイゼン、ハーネス、ヘルメットを持っている人は持参のこと。無い人は早めに連絡下さい。

2. 霧氷の鶴見岳(1374.5㍎)

マイクロバス利用のため早めに連絡をお願いします。

と き 24年1月24日(火)
行 程 JR新下関6:05発→JR下関6:16発→JR門司駅6:31着→門司駅北口でマイクロバスに乗り替え6:35出発→小倉駅北口KMMビル7:00→道の駅「おこしかげ」8:00→鶴見岳ロープウェー駐車場駐車場9:00集合
コース 神社→鶴見岳1374.5㍎→南平台1216㍎經由→神社下山
〆切り 1月16日
申込み 原 広美(自宅 TEL. fax 083-245-5490、
携帯090-6832-2128)
その他 ○ アイゼン持参 ○ 下山後別府温泉入浴:タオル、石鹸、シャンプーを持参のこと

2月の山行

1. 伯耆大山冬山訓練

と き 2月10日(金)～13日(月)
日 程 2/10(金) 夜行バスで小倉発
2/11(土) 米子着。大山寺テント設営。
元谷で雪上訓練
2/12(日) 大山(弥山)登山
夜行バスで米子発
2/13(月) 小倉着
申込み 板倉健一(090-7163-1610)
〆切り 1月31日
費 用 1人20,000円

2. スキー部2012年度行事

と き 2月17日(金)夜行バス～18日(土) 車中1泊
ところ 島根県大佐スキー場と大佐山予定
費 用 約15,000円(バス代、保険料ほか)
申込み 池田智彦 宛(TEL&FAX 093-331-6259)
(〒801-0882北九州市門司区清見1丁目12-22-102)
定 員 20人
〆切り 2月3日
※ 住所、氏名、スキーレンタルの有無(靴サイズ)、連絡先記入(ハガキ、FAX)のうえ、申込みして下さい。詳細については、あとでお送りします。

3月の山行

竜ヶ鼻(681㍎)登山

(参加条件～登り下りとも足場の悪い岩場の急勾配で、道らしいものは無く、中級クラス向き)
と き 3月25日(日) 午前8時30分集合(JR採銅所駅)
集 合 9時集合(小倉側から行った場合、国道322号線金辺トンネル田川側出口から旧国道へ右折すると右側に旧ドライブイン空き地「墓場前」あり)
行 程 ⑨9:00→登山口→第2尾根9:50→岩稜下11:00
旧山頂→展望台12:00(昼食)13:00下山→竜ヶ鼻山頂(三角点)13:20→大岩→旧金辺トンネル入口15:00ごろ→⑨解散(時間は目安)
申込み 濱松禮子(TEL, FAX 0930-28-9481)
竹本加代子(TEL, FAX 0930-28-9611)
〆切り 3月20日 ※ 各人JR又はマイカー相乗りで。前日、当日雨天の場合中止。

4月の山行

1. 山岳技術専科(皿倉山)

第4回テーマ 「装備の機能」
「筋肉疲労とその対策」ほか

と き 4月1日(日) 9時～15時
(以下、1月の山岳技術専科第3回に同じ)
〆切り 3月24日まで
申込み 竹本正幸(TEL 0930-28-9611)

2. 平尾台(唐手岩)岩登り教室

岩登りの基本を習得します。初めての人も参加して下さい。

と き 4月15日(日)
ところ 平尾台 唐手岩 午前9時集合
申込み 板倉健一(090-7163-1610)
〆切り 4月10日
費 用 1人500円

3. 英彦山(1200㍎)清掃登山

と き 4月22日(日)
集 合 22日午前9時30分、別所駐車場
行 程 別所駐車場から3コースに分かれて、清掃しながら中岳へ。昼食後、正面登山道を下
山予定
携行品 弁当、水筒、軍手、ゴミばさみなど
ビニール袋は、添田町から提供予定。
担 当 高島拓生(090-4587-0746)
西村信子(0930-33-4618)

諸塚山の第27回山開き

溝部会員(アニーモ山歩会)より、「諸塚山の第27回山開き」へのお誘いがありましたので、ご案内致します。

と き:平成24年3月3日(土)~4日(日)
集 合:3日 07:30 JR小倉北口・KMMビル前
08:40 JR博多駅前・朝日ビル駐車場
宿 泊:飯干公民館で前夜祭後、「福朗」泊
式 典:4日 10:30 山開き式典後、諸塚山山行
解 散:4日 19:00頃 JR小倉駅帰着予定
参加費:2万円前後(バス代込み)
※ 問い合わせおよび申し込みは、
溝部会員(tel・fax 0940-33-6353)宛
直接お願い致します。

—事務局 山田武史—

新 サロン ルーム

2月のサロンより午後6時から約1時間、映画やビデオ、体験談などを予定しております。

小倉サロン 毎月第4水曜日

1月のサロン、25日(水)

2月のサロン、22日(水)

映画「カラコラム」上映(詳細は12ページ)

3月のサロン、28日(水)

映画「花嫁の峰 チョゴリザ」上映

4月は総会のためお休み

5月のサロン、23日(水)

体験談「ヒマラヤ、ナンダ・デヴィ東峰(7,434m)」

1978年遠征。板倉健一会員

時間 午後6時00分から映画、

体験談など。終了後サロンルーム懇親会。

場所 小倉北区魚町「コールド」

申し込みは山田武史(090-6422-5662)まで。

博多サロン 3カ月に1回、第1木曜

2月2日(木) 午後6時30分から

場所 福岡市博多区吉塚本町13-55

サンヒルズホテル内 居酒屋「呑多来」

092-631-3331 JR吉塚駅から徒歩3分

次回のサロンは5月3日(木)

申し込みは、小林富雄(092-681-4673)まで。

本

紹介

ゆうきゆう

悠久の屋久島

山岳記録写真集 太田五雄 著

ヒマラヤにも足跡を残した登山家である太田五雄さん(JAC福岡支部会員)が、50年間、屋久島の踏査登山のかたわら撮りためてきた写真集がこのほど刊行された。



屋久島の最深部、誰も知らない本当の屋久島の素顔が、数々の写真によって初めて明らかにされる。写真用紙を使用、写真の鮮度を強調し、屋久島の壮大な自然をお楽しみ下さい。(南方新社 販価3,800円+消費税)

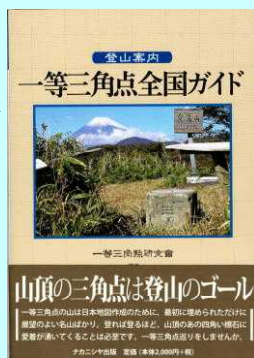
本

紹介

一等三角点全国ガイド

一等三角点研究会 編著

一等三角点研究会は、平成19年(2007年)創立。京都の山仲間が中心に、今西錦司氏を顧問に昭和48年創設した会を再編した会で、北海道から九州まで全国に亘る会員が、一等三角点に関する歴史的意義を研究し、各種基準点などの設置目的を理解して山行や例会、会誌「聳嶺」(しょうれい)など発行し幅広い活動を行っています。あなたは何山登られましたか?



聳え立つ山の頂きの一等三角点。地図を読んで辿りついた藪山の一等三角点。身近な里山にある一等三角点。山登りには、名山や数にこだわらずに登る人もあれば、こだわって登る人もあります。そのどちらの人にもガイドとして、全国546の500m以上の一等三角点標石の顔を訪ねる山旅を、本書『登山案内一等三角点全国ガイド』がご案内します。日本山岳会の三百名山の次ぎに、これらの三角点標石に登られることをおすすめします。

なお今、会員(伊藤Q)を通じてご注文下されば、日本山岳会会員割引価格(送料無料)でお送りいたします(株式会社ナカニシヤ出版から)。

定価2,100円(日本山岳会会員割引価格1,890円)

一等三角点研究会会長 大槻雅弘

編集後記

○ 新年明けましておめでとうございます。本年もどうかよろしくお願い致します。今回もやはり記事が多くて、22ページとなってしまいました。昨年暮れから年中無休でがんばって、何とか1月の初旬に発行を目指しましたが、やはり遅くなりました。伊藤Q

○ 山の原稿は、事務局局長山田武史または伊藤久次郎へ。メールまたはFAXをお願いします。

Eメール原稿(写真も含む)は、伊藤宛 アドレス ja6cpl@ktj.biglobe.ne.jp です。